

年 組 名前：

将棋界では「プロ棋士養成機関」の奨励会で四段に昇段しプロデビューすると、初めて一人前として扱われます。私は21歳で、藤井聡太竜王は14歳でプロになりました。

ただ「一人前」大人は少し違うかもしれません。将棋を広く知ってもらい、いかにファンの人を楽しんでもらえるか。プロ意識を持って取り組む人が大人と考えます。

将棋は必ずどちらかが負け、一対一の勝負は小さな挫折の繰り返しです。一番大きな挫折は奨励会の退会。規定で21歳までに初段、26歳までに四段になれなければ退会となり、辞めていった弟子の気持ちにはじくじたるものがあつたと思います。

でも、それは別に人生においての負けではありません。10代で奨励会を去り、新たな目標を見つけて活躍している弟子はたくさんいます。若い頃の失敗はいくらでも取り返せる。挑戦しなければ後悔を残すでしょうから、失敗を恐れず、どんどんチャレンジするのが大事だと

失敗を失敗と思わずに 杉本昌隆

思います。そしてもつと大事なのは、失敗した時や結果が出なかった時にそれを失敗と思わないことです。

負けるとみんなに失敗を見られていた気がしますが、実は周りの人ってそんなに見ていない。だから自分の気持ちの問題であり、自分が立ち直ればそれは失敗ではないと思うようになっています。

立ち直りには早い遅いの個人差があつて、私は少し時間がかります。藤井竜王は恐らく一晩もかからず数時間。人間は絶対の前を向けるようになっていきます。であるなら、早い方が良いというのが私の得た教訓です。

どうしても人は目に見える結果を重視しがちですが、後にながる負けつてあるんです。本人だけは知っているんですね、大きなものを得たことを。それは長い目で見れば負けではない。自分の中で満足、納得できるものを積み重ねていけば、成長へとつながるのではないですよか。

(談)

(2022年4月30日付 山梨日日新聞 11面)

問1

4月から18、19歳も成人となりました。将棋の藤本^{そうた}聡太五冠の師匠・杉本^{まさたか}昌隆さんは、若いころ失敗した時どうすることが大事だと言っていますか。

.....

問2

杉本さんが得た教訓とは何か書いてください。

.....

問3

杉本さんの生き方、考え方についてあなたは思うか書いてください。

.....

.....